

【基本方針3】

都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく

- (1) 城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす
- (2) 人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

■地区の特色を活かしたまちをつくる

- 多彩な地域資源を活かした地域まちづくりの推進

■訪れた人が心地よさを感じる空間を形成する

- 水辺と緑を活用したまちの魅力向上

■駅からまちへ、まちからまちへつないでいく

- 魅力ある歩行者空間の形成



〈 凡 例 〉

- 歩行者空間の拡充やにぎわいの誘導を図る幹線道路
- 自動車交通機能以外の機能を担わせる幹線道路
- 都心の他地区との連携
- 地域資源
- 地域まちづくり組織



本丸御殿
名古屋城

名古屋市
市政資料館

四間道・那古野界隈
まちづくり協議会

円頓寺
商店街

四間道

外堀通

久屋大通公園

桜通

名古屋テレビ塔

愛知芸術文化
オアシス21
センター

柳橋市場
界隈

納屋橋
堀川

錦通

栄

中日劇場

新名古屋
ミュージカル劇場

てんきの科学館

御園座

名駅南地区
まちづくり研究会

伏見通

名古屋科学館

白川公園

名古屋市
美術館

本町通

大津通

久屋大通

名駅南地区

若宮大通

ランの館

大須観音

大須

■栄、名古屋城などとの連携を強化する

○新たな交通手段の導入を検討

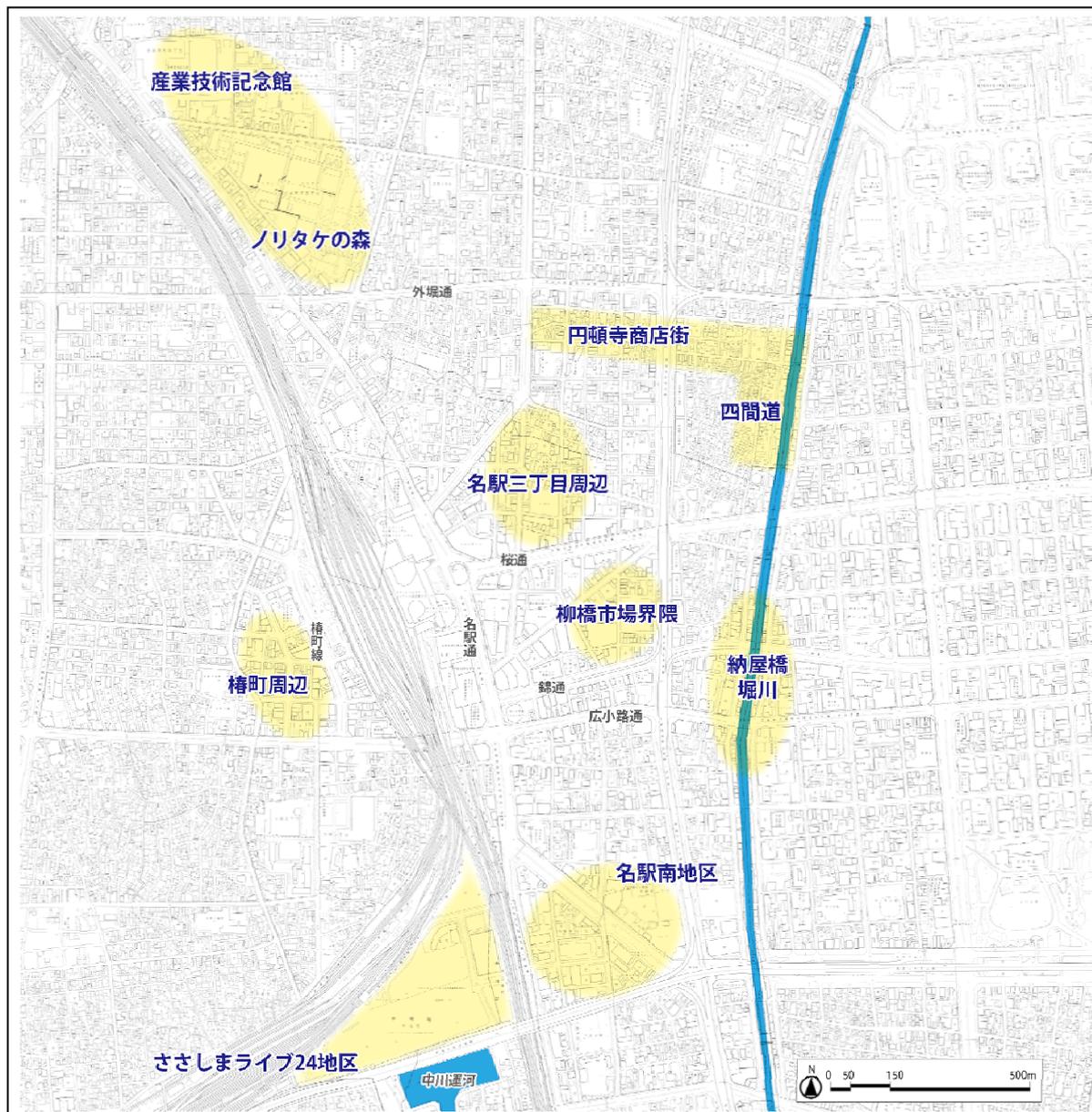
➤ 地区の特色を活かしたまちをつくる

取組み1

多彩な地域資源を活かした地域まちづくりの推進

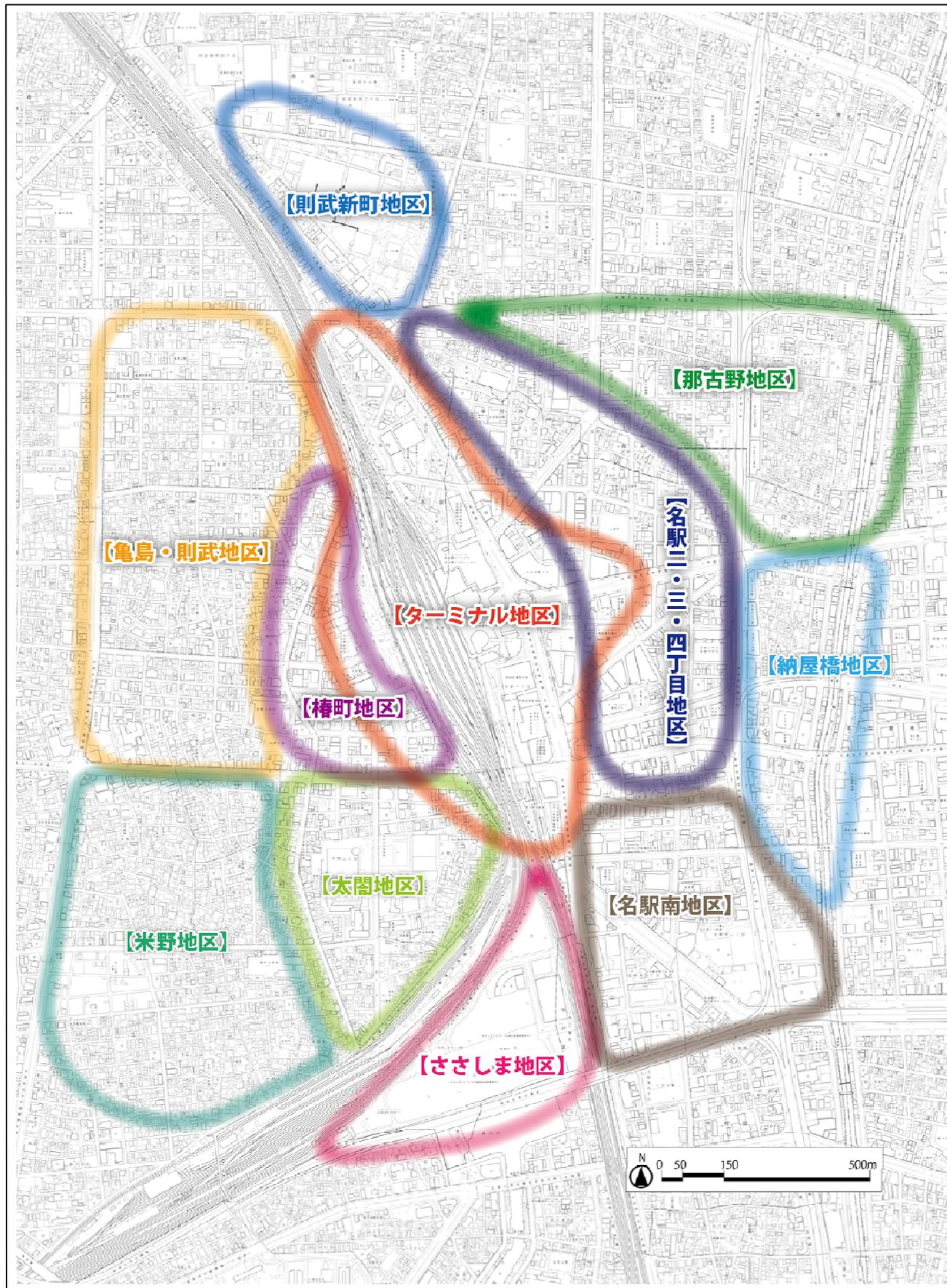
- 名古屋駅周辺地区にある多彩な地域資源を活かすとともに、新たな地域資源を発見・創造し、育てることにより、まちの魅力を高めます。
- 地域の人々が中心となって、地域がより良くなるための地域まちづくりを進めます。
- 地域まちづくりや民間再開発を進める組織の活動をサポートします。

(名古屋駅周辺の地域資源の状況)



地域資源	写真	状況
産業技術記念館		名古屋駅直近でものづくり文化に触れられる施設である。産業技術記念館は赤レンガの工場を保存・活用しており、ノリタケの森は緑豊かな環境と憩いの空間、産業観光等の機能を維持しつつ、工場跡地を活用した開発が検討されている。
ノリタケの森		産業技術記念館：名古屋市都市景観重要建築物指定
円頓寺商店街		歴史が深く趣と温かみがある下町情緒を残す商店街であり、近年、個性的な飲食店が増えている。
四間道		清須越によってつくられた商人町であり、土蔵群と町家からなる街並みが今も残っており、土蔵を利用した店舗などが増えている。
名駅三丁目周辺		古民家を活用した飲食店が多く立地し、特徴的な景観と賑わいを形成している。
柳橋市場界限		都心部にある全国最大級の規模を誇る民間市場として、この地域の食文化を支えている一方、建物の老朽化や店舗数の減少が見られる。
椿町周辺		専門学校などの教育施設、サブカルチャーの店舗、多国籍な飲食店が多く立地しており、賑わいと活力のある地区となっている。
納屋橋・堀川		都心部における貴重な水面であり、歴史的建造物である納屋橋を中心に趣のある景観を形成している。納屋橋東地区において市街地再開発事業が行われている。
名駅南地区		流通業務系の土地利用がなされてきたが、近年、大規模な低未利用地が見られる。笹島線の整備が計画されている。
ささしまライブ24地区		「国際歓迎・交流の拠点」の形成を目指し、国際交流施設・ホテル・コンベンション施設・大学等の立地が進められている。

(地域まちづくりを進める上での土地利用イメージ)



【ターミナル地区】

- ・ターミナル機能に加え、業務機能、交流機能など、交通利便性を活かした多様な都市機能が高度に集積した名古屋の玄関口

【名駅二・三・四丁目地区】

- ・業務施設とそれを支える飲食・娯楽施設が共存するまち
- ・柳橋市場周辺は、市場機能を活かしながら建物更新を進め、周辺の商業・業務施設と調和したまち

【椿町地区】

- ・名古屋駅直近の利便性に加え、若者文化や国際性豊かな地域特性を活かした商業施設や教育施設などが立地したまち

【則武新町地区】

- ・ものづくり文化・歴史資産を活かした産業観光施設、豊かな緑の環境を備えたにぎわい施設、都心居住を促進する共同住宅などが立地した都市拠点

【那古野地区】

- ・名古屋駅と名古屋城の中間に位置する特性を活かしながら、歴史的な風情や堀川とのつながりを大切に、ものづくり文化を継承する企業、商業施設、共同住宅、戸建住宅が調和したまち

【納屋橋地区】

- ・堀川沿いを中心に商業・業務施設と共同住宅が調和したにぎわいのあるまち

【名駅南地区】

- ・大規模な低未利用地の利用を進め、名古屋駅直近の利便性などを活かして、駅前を補完する業務施設、共同住宅などが立地したまち

【亀島・則武地区】

- ・名古屋駅に近接する利便性を活かした共同住宅、戸建住宅と、生活を支える商業施設などが立地したまち

【太閤地区】

- ・幹線道路沿道を中心に立地する商業・業務施設と共同住宅・戸建住宅などが調和したまち

【米野地区】

- ・戸建住宅を中心とする、防災性や居住環境の改善が進んだ生活利便性の高いまち

【ささしま地区】

- ・国際交流施設・ホテル・コンベンション施設・大学などが立地するとともに、親水空間や公園が整備され、国内外からの来訪者や市民でにぎわう国際歓迎・交流の拠点

訪れた人が心地よさを感じる空間を形成する

取組み 2

水辺と緑を活用したまちの魅力向上

- 堀川や中川運河など名古屋駅周辺地区にある貴重な水辺を活かし、まちの魅力向上を図ります。
- 公園や道路、民有地において見える緑を増やし、心地よい都市空間を形成します。

(水辺と緑の活用イメージ)

・ 樹木による緑のほか、壁面の緑化などの工夫により緑を増やす。




・ 周辺のまちづくり活動と堀川とのつながりをつくる。



(堀川まちづくり構想より)



・ 多くの市民や観光客が訪れる魅力的なイベントが開催される場とする。



(堀川まちづくり構想より)

・ 平時には、まちにゆとりと潤いをもたらす緑のオープンスペースとして、発災時には地域の避難場所や救援活動の拠点となるよう整備する。



・ 中川運河船だまりを中心とした親水空間と緑豊かな公園により新たな魅力スポットを形成する。



〈 凡 例 〉

- 水辺を活かすエリア
- 街路樹によるネットワーク
- 公園
- 河川

0 50 150 500m

➤ 駅からまちへ、まちからまちへつないでいく

取組み 3

魅力ある歩行者空間の形成

- 地上に加え地下の通路空間を活用し、名古屋駅と地域資源を持つまち、まちとまちをつなぐ回遊性の高い歩行者ネットワークを形成します。
- 幹線道路や、幹線道路と地域資源等をつなぐ区画道路を中心とした道路空間の見直しや、民間再開発で確保される民有地内の歩道状空地などを利用して、歩いて楽しい歩行者空間を形成します。

(歩行者空間の考え方)

(地上)

- ・ 歩行者ネットワークの骨格となる幹線道路、区画道路について、可能なところは道路空間の配分（自動車、自転車、歩行者等）を見直し、歩行者空間を拡充する。

◆ 歩行者ネットワークの形成イメージ

駅からまちへのつなぎの空間や駅前の顔として魅力ある空間を形成するため、歩行者空間の拡充を図る。

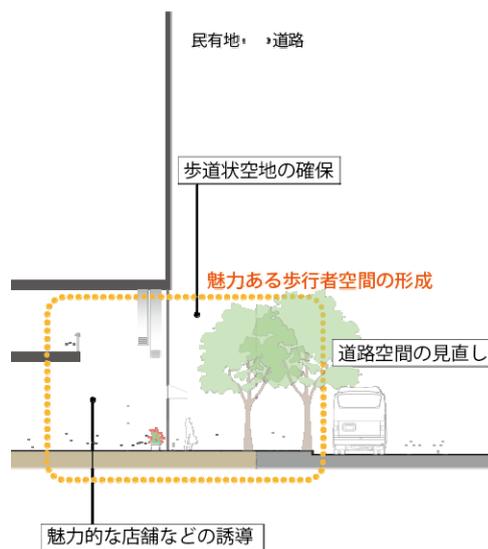
栄地区と結ぶ連携軸として、沿道と一体となった賑わい空間を形成する。



- ・ 歩行者ネットワークが幹線道路で分断されている箇所については、横断しやすい環境を整える。

- 幹線道路や幹線道路と地域資源等をつなぐ区画道路の沿道において、民間再開発により歩道状空地の確保、緑化の推進、建物低層部への魅力的な店舗の誘導などを進め、歩行者が楽しく快適に通行できる空間を形成する。
- 歩行者動線が集まる交差点周辺等には、広場状空地を確保し、快適な溜まり空間を形成する。
- 大規模な開発においては、敷地や建物内に通り抜け通路を設け、歩行者の回遊性を高める。

◆ 魅力ある歩行者空間の形成イメージ



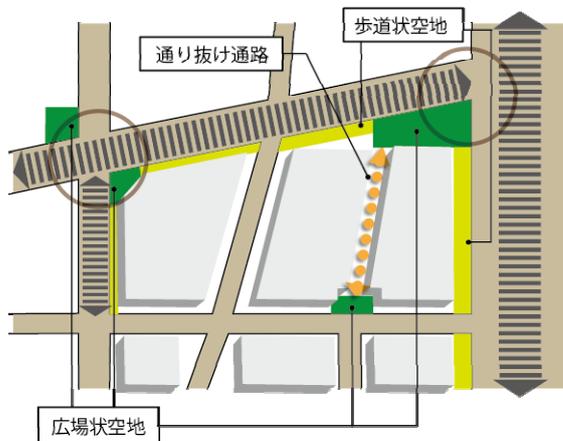
歩道状空地の確保のイメージ
/JPタワー名古屋（計画）



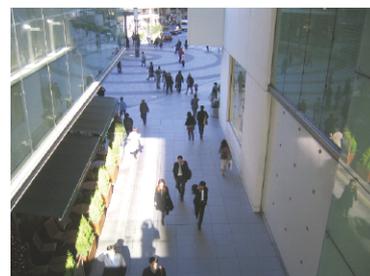
魅力的な店舗などの例
（丸の内仲通）



◆ 歩行者動線のイメージ



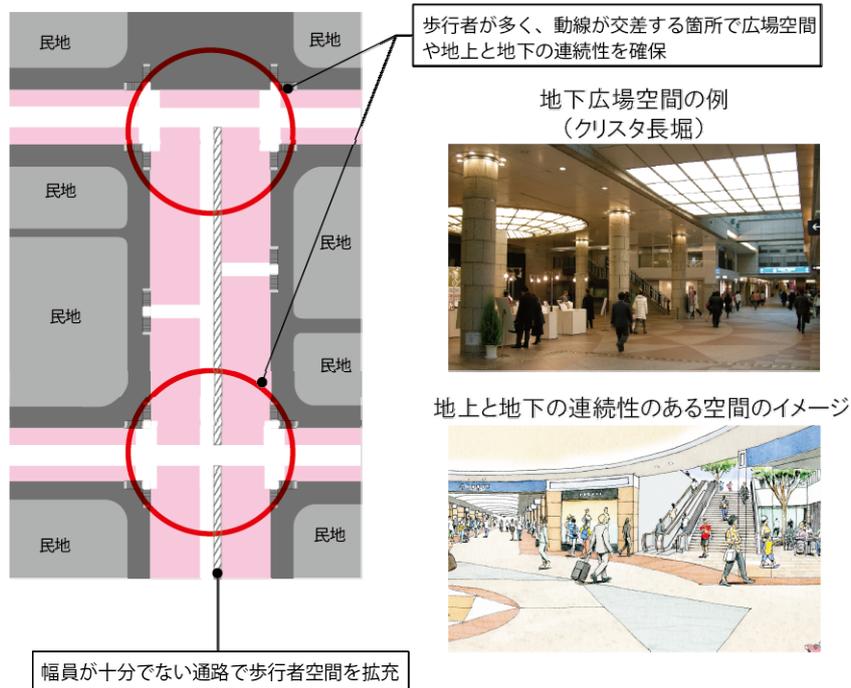
通り抜け通路の例
（有楽町イトシア）



(地下)

- 複数の地下街や鉄道駅などが複雑に接続しており、歩行者交通量も多いことから、地下の歩行者空間の拡充や広場空間の確保により、わかりやすく、ゆとりのある空間を形成する。
- 道路空間を有効に活用しつつ、歩行者ネットワークの中心である地上と地下の歩行者空間の連続性を高め、スムーズな移動も確保する。

◆ 地下の歩行者空間拡充等のイメージ



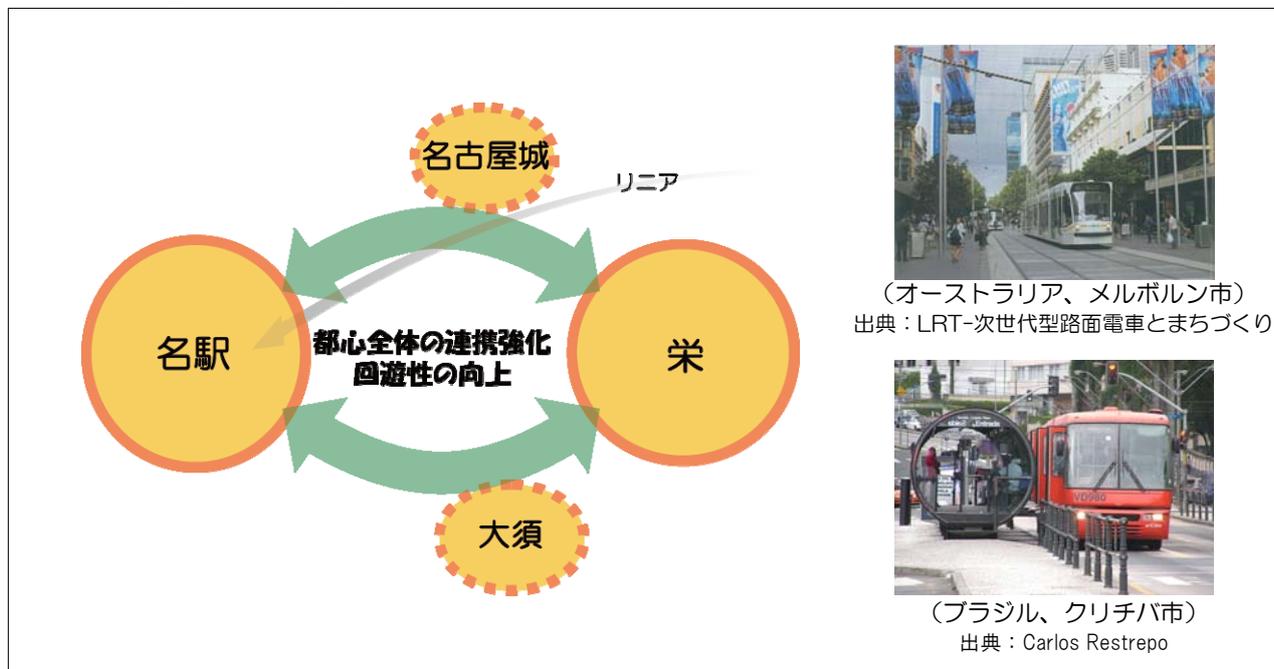
➤ 栄、名古屋城などとの連携を強化する

取組み 4

新たな交通手段の導入を検討

- まちの回遊性やにぎわいの向上、都心全体の連携強化を目指して、リニアで訪れた人が名古屋のまちを見ながら移動できる、最新の技術を取り入れたLRT*やBRT*などの新たな路面公共交通システム導入の検討を進めます。

(LRT・BRTの導入のイメージ)



◆ 名古屋市で先進的に導入した交通システムの事例



中央走行方式の基幹バス



ガイドウェイバス



リリモ

○LRT(Light Rail Transit) 低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性・定時性・速達性・快適性などの面で優れた特徴を有する次世代型路面電車システム。

○BRT(Bus Rapid Transit) 輸送力の大きなバスの投入、バス専用レーン、公共車両輸送システム等を組み合わせた高次のサービス機能を備えたバスシステム。

▶ 目標と進め方を共有してまちづくりを進める

(進め方イメージ)

- 構想に基づくそれぞれの取組みについてプロジェクト調整会議（仮称）を開催し、調整・協議を進めます。
- それぞれの取組みにおいて、利用者等の視点も踏まえながら、整備計画等を定め、役割分担を明確にするなど行政・民間が協力して行動し、目標とするまちの姿を着実に実現していきます。



(推進体制イメージ)

- プロジェクト調整会議（仮称）は、名古屋駅周辺地区のまちづくりの関係者を構成員とし、取組み毎に必要なメンバーの参画のもと、調整・協議を進めます。
- 名古屋市は構想実現の中核として国や愛知県などと連携し、それぞれの取組みに対して主導、実施、誘導、支援という役割を担っていきます。
- ターミナル機能強化など行政が主導し、着実に取り組んでいくことにより、民間や地元の動きをけん引していきます。

プロジェクト調整会議（仮称）の構成員イメージ

